



日本聖書神学校 学 報

Japan Biblical Theological Seminary

〒161-0033 東京都新宿区下落合 3-14-16・☎03-3951-1101 ~ 2・Email: jbts@jbts.ac.jp

2023年9月10日

第173号

発行人 神保 望

【後援会献金口座】

郵便振替:

00110-3-6435

加入者名:

学校法人聖経学園

日本聖書神学校



【巻頭言】

Iさんへのレクイエム

教授 古谷正仁

今号の内容

巻頭言	1
後援会活動報告	2
献身志願者の集い	2
卒業生継続教育(自習)支援制度	3
決算報告	3
学事報告・個人消息	4

「御言葉を行う人になりなさい。自分を欺いて、聞くだけで終わる者になってはいけません。」(ヤコブの手紙1章22節)

最近、何故かしきりに、既に召されたIさんのことを思い出すようになった。彼は戦前、帝国海軍のエリート軍人だった。戦後の苦しい経験の後、発足間もない海上自衛隊に職を得たが、そこに留まることを潔しとせず、海上保安庁職員として後進の指導に当たった。余談になるが海上保安庁で指導した部下が後日時田教会員となった時、その元部下が直立不動で挨拶をしていたことが印象深い。Iさんは現役時代には米国留学の経験もあった人だが、偉ぶらず、謙遜であった。その折も、元部下に握手を求め、「宜しく願いますね。」と丁寧に頭を下げたのだった。

Iさんは、90歳を超えても車の運転をした。晩年病を得た妻と、若くして病に倒れ、後遺症に悩まされた一人息子を介護し、家事全般を引き受けるために必要だったからだ。主日毎に、教会をこよなく愛するご子息と共に礼拝に出席し、終了後、妻を案じて急いで帰るこの親子は、午後の集会に出席することは殆ど出来なかった。大変な生活であったと思うが不満も愚痴も言わず、飄々と日々の課題をこなす人だった。

妻を天に送った後、ご子息との生活が限界となり、施設に入所。ご子息は福祉的なサービスに支えられ、一人暮らしをされることとなった。私も何回か施設にお訪ねしたが、ご高齢からだろうか難聴が進み、穏やかではあるが、孤高とも言える生活となって行った。

天に召される1年程前、花の日の礼拝後、私は小さな花束を持ってIさんを訪ねた。彼は施設のホールで車椅子に座り、静かに自分の世界を楽しんでいて、私の挨拶も、Iさんの耳元でなす、怒鳴るような大声での祈りも、殆ど理解してはいないようだった。

しかし、私が花束を差し出すと、乏しかった表情が一

変した。その頃時田教会では、花の日・こどもの日の礼拝は、大人も子どももみんな一緒に、一輪ずつ花を持ち寄り、それを聖堂に飾り、終了後にはそれで花束を作り、礼拝に出席することの出来ない教会員等にお届けしていた。私もその日Iさん等数人の担当となったのである。「お花は買うのではなく、出来るだけ庭の花等を持って来て下さい」と伝えていることもあり、その花束は、心はたくさん籠っているものの、この世的に見ればそれ程のものではなかったと思う。しかし彼は、宝物を受け取るように恭しく受け取り、大きな声で「アーメン」と唱え、感謝の思いを全身で表した。それが花の日の花束だとは分からなかったかも知れないが、それがどんな風に教会に集められ、どんな思いでこの花束が作られたのかということ、直感的に感じ取ることが出来たのだろう。このアーメンは彼の神への感謝と信仰の告白であり、私は激しく感動し、溢れる涙を抑えることが出来なかった。

Iさんは若き日に、「お国のために命を献げる」決意の中で生きた。そして戦後、キリスト者であった妻と結婚し、「神と隣人に仕える(命を用いる、献げる)」生き方を知った。そして妻の信仰に触れ、キリスト教主義学校に学んだご子息の影響もあり、教会に連なり、福音を知り、ご自身の生き方も転換して行ったのである。黙々と、飄々と、そして感謝と喜びをもって、神と人に仕える道に、聖霊のお支えの中、その歩みを深めて行かれた。それが、私が最後に聞いたあの「アーメン」に結びついて行ったのだろう。

人が育つ、人が育てられるという営みに関わる中で、私達は自らの無力さを痛感することも多い。しかし2000年の歩みの中で、教会は「教え、学び合う共同体」として、礼拝を中心とする営みを重ねて来た。そこには聖霊の助けが与えられている。その中で「小さな奇跡」も積み重ねられて行く。そのことの希望の中で、この道に歩むことを続けたい、それを許されたいと願う昨今である。

後援会活動報告 創立77周年記念の集い

2023年5月14日(日)午後4時より、日本聖書神学校創立77周年記念の集いが開催されました。

今年はYouTubeによる配信も行い、遠方の方々にも同時視聴によって御参加いただくことが出来ました。日本基督教団勝田台教会の三矢亮牧師(49期)を説教者としてお迎えして開会礼拝が捧げられ、後援会から神学生に支給される奨学金の支給認定式で9名の神学生に奨学金の授与が行なわれました。更に今年は新しい試みとして、出席した神学生全員に「好きな聖句は」「好きな讃美歌は」「好きな授業は」「どんな牧師になりたいか」等々の質問をして、参加して下さった方々に神学生の顔とそれぞれの思いを憶えていただく交わりの時を持ちました。

2023年4月7日、ジーン・メーヤーさんの遺灰が横浜の清水ヶ丘教会の納

骨堂に安置されました。

ジーンさんは日本聖書神学校の草創期に神学校の開校に尽力されたドクターP.S.メーヤーの三番目のお嬢さんです。ジーンさんは2018年12月31日に96歳で天に召されましたが、生前から御両親の遺灰が安置されている清水ヶ丘教会の納骨堂に御自分も一緒に納めてもらいたいという御希望がありました。コロナ感染症の影響で四年ほど納骨が延期されていましたが今年漸くジーンさんの姪にあたるドクター・メーヤーのお孫さんがジーンさんの遺灰を携えて来日され清水ヶ丘教会の納骨堂に無事安置することが出来ました。納骨式に参列して、1946年に創立され今年77周年を迎える日本聖書神学校の歴史が停まることなく脈々と繋がって今の神学校があることを改めて感じさせられました。そして



メーヤー・ファミリーの日本の福音伝道に対する篤い思いを土台として日本聖書神学校が築かれていることを思い起こすことが出来ました。

日本聖書神学校は創立以来77年間、日本全国の皆様のお祈りと献金によって支えられて来ました。心から感謝いたします。どうぞこれからも引き続き日本聖書神学校の後援会にご支援、お支えそしてお祈りを賜りますようお願い申し上げます。

(菊池公平 後援会長)

第12回献身志願者の集い



7月16日から17日にかけて、第12回献身志願者の集いが行われました。今年はようやく対面での二日間の開催となり、時間と空間を共有する重要性を改めて実感する会でした。同窓会、後援会、神学校の三者から代表が集い、準備と祈りの会合を重ねて当日を迎えるのですが、最も気になるのはやはり何人の申し込みがあるかです。出足が遅くはらはらしましたが、6名の参加を得て当日を迎えることができました。呼び集めてくださった主に感謝します。

開会礼拝では神保望校長がコリント

二六章1-10節より、「恵みは既に始まっている」と語られました。神学校へ入るとか伝道者として献身するというのは途轍もない覚悟を要する「人間の」決心のようであり、実は既に始まっている神の恵みの業に、信頼をもって従うことだと教えられました。「献身の喜び」の証しの時には、東出英幸神学生(3年)と早川真牧師(小石川白山教会・71期)がそれぞれに語る経験を通して、神がどのようにして人生に介入し、召し、育てられるのかが、眼前に描き出されました。成功や充足の中でのというより、悲嘆や焦燥の中で次の一歩が示されるということが印象に残りました。

続く「御言葉・音楽・静思のとき」は、聖書の朗読と音楽と沈黙の中で召しを思いめぐらす時間です。後援会の佐野恵子さんの朗読により、エレミヤ書より預言者の召命、嘆き、そして救いの

確かな約束が語られました。音楽は本校講師の河野和雄先生が構成し、指揮されました。D.E.ワグナー「二つの詩編」とG.フォーレ「ラシーヌの賛歌」がキリスト教音楽院の皆さんのハンドベルとオルガン、関義朗牧師(土気あすみが丘教会・70期)のフルート、山本泰広神学生(2年)の朗読によってささげられました。素晴らしい演奏を感謝します。

夜のグループ懇談、二日目の分かち合いの時では、参加者の積極的な質問や言葉により、答える側の者たちの思いも引き出され、霊的に深められる時間でした。後援会役員の村上信男さんと菊池公平さんからの、熱く励ましに満ちた語り掛けの後、校内見学と個別相談会をもって閉会しました。参加者の方々のこれからの歩み、そして来年の集いのためにお祈りください。

(荒瀬牧彦 教務部長代行)

卒業生継続教育（自習）支援制度をご利用下さい

日本基督教団では、各教師が任地に赴いて直面する宣教的課題に適切に対応出来るよう、教師継続教育「夏期研修会」を実施しています。講師の一人として奉仕した際の印象は、参加者の誰もが大変熱心であったことです。最近では各個教会の財政規模が縮小傾向にあるためか、複数教職が仕える教会数が減少しており、卒業と同時に主任担任教師として赴任するケースが増加しています。その場合、赴任した教会において具体的責任を担いながら学びを進めて行くこととなりますが、新卒ということもあり不安を抱え戸惑う場合もあるのではないのでしょうか。

日本聖書神学校では卒業後も学ぶ機会を提供する必要があると判断したことから卒業生継続教育（自習）支援制

度を新たに設け、本年五月から運用を開始しており、既に利用された方もおられます。この制度は神学校卒業後、宣教の現場に立つことで見えて来る具体的宣教の課題に応えるために、神学校が学生寮と図書館を活用して学ぶ機会を無償で提供するというものです。

卒業生の中には正教師試験の準備をするにも、図書館閲覧室を利用するのに困難を覚えざるを得ない遠方にお住まいの方々がおられます。そこで学生寮に無償で宿泊し、図書館開館時に閲覧室で自習して頂けるようにしました。交通費や食費等は自己負担となりますが、環境の良い学生寮に滞在しながら安心して自習することが出来ます。各個教会にて、自習に必要な時間を確保された上で本制度をご利用下さいませ

よう、強くお勧め致します。

赴任された教会の書齋で学ぶことも大切ではありますが、短期間ではあっても教会を離れ、母校に帰って図書館の蔵書を活用し学ぶことは、個人の書齋とはまた違った意味で豊かな学びとなるに違いありません。日本聖書神学校は、卒業生継続教育の一環として各教師の自習支援に協力出来ますことを大きな喜びとしております。本制度のご利用を希望される方は、神学校ホームページをご覧ください。利用手続の解説や申請書が掲載されています。

福音宣教の現場に立つ全ての卒業生のお働きが祝されますよう祈念しつつ、「自習支援制度」を利用される方々を心からお待ち申し上げております。

(神保 望 校長)

決算報告 2022年度会計について

同窓生、諸教会の皆様には日本聖書神学校のためにお祈りいただき、それぞれ厳しい状況の中にも関わらず、学校運営に多くの献金を捧げてくださり、深く感謝いたします。

2022年度の学校法人会計は、後援会から1502万円のご寄付を頂くとともに、個人の方から1000万円の特別献金があったこともあって、724万円の黒字となり、この1000万円の献金で学習環境整備基金を新設しました。

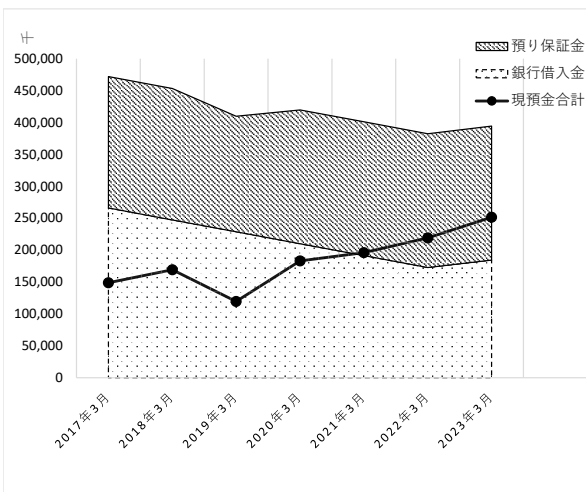
借入金の返済も予定通り行うことができました。

また、収益事業会計は施設利用料収入が前年度比411万円増加、駐車場賃貸は136万円増加しました。年度末には預り保証金の引当金の積立3000万円を行い、資産総額に対する負債総額の比率は前年に引き続き改善しました。負債比率は今後も改善の必要はありますが、順調に返済を行っております。

現在理事会・合同委員会では安定した学校運営のため、老朽化したテナントビルの問題等様々な課題の検討を続けております。

昼は働き夜学ぶ、召命を受けた学生のために日本聖書神学校は学校設備や研究環境を充実させ、この地で存続していく必要があります。引き続き皆様のお祈りとお支えをお願いいたします。

(松脇達朗 総務部長)



区分	部門	科目	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
			実績	実績	実績	実績	実績
経常収入	学校	学校計	50,954,467	50,540,845	45,706,059	52,177,379	101,925,630
	収益	収益事業計	128,071,089	136,966,592	141,652,808	146,293,149	151,645,717
		経常収入計	179,025,556	187,507,437	187,358,867	198,470,528	253,571,347
経常支出	学校	学校計	70,001,278	65,454,373	60,397,987	62,299,607	65,625,390
	収益	収益事業計	52,651,344	44,133,055	41,227,565	44,816,532	78,961,365
		経常支出計	122,652,622	109,587,428	101,625,552	107,116,139	144,586,755
		経常収支差引計	56,372,934	77,920,009	85,733,315	91,354,389	108,984,592
		財務収入計	174,138,445	148,506,386	82,279,827	167,737,069	53,081,717
		財務支出計	190,824,674	247,972,469	153,266,454	251,932,994	159,748,460
		財務収支	-16,686,229	-99,466,083	-70,986,627	-84,195,925	-106,666,743
		総合収支	39,888,705	-21,546,074	14,746,888	7,158,464	2,317,849
		前年度繰越資金	72,870,621	112,557,326	91,011,252	105,757,940	112,916,404
		当年度収支	39,686,705	-21,546,074	14,746,688	7,158,464	2,317,849
		次年度繰越資金	112,557,326	91,011,252	105,757,940	112,916,404	115,234,253
		学校債残高	84,380,000	69,380,000	60,380,000	46,390,000	45,250,000
		設備資金借入金					31,015,000
		銀行借入金残高	228,685,000	210,025,000	191,365,000	172,705,000	154,045,000
		預り保証金	181,000,000	209,800,000	209,800,000	209,800,000	209,800,000
		保証金引当預金残高	0	58,800,000	63,800,000	78,805,868	108,805,868
		奨学金預金残高	7,700,000	27,220,228	27,220,500	28,180,468	28,180,468
		学習環境整備積立金					10,000,000

Diary 学事報告

2023年4月～8月

- 4月3日 入学始業礼拝、説教「起きて祈っていないさい」神保 望校長、新入生15名(正科生6名、聴講生9名)入学
- 4月3日 教授会(第1回)
- 4月4日 学生自治会新入生歓迎会
- 4月5日 前期授業開始
- 4月10日 学報(172号発行)
- 4月17日 理事会(第284回)
- 4月26日 学生自治会総会
- 5月8日 教授会(第2回)
- 5月9日 創立記念日
- 5月14日 創立77周年記念の集い、参

加者45名

- 5月15日 後援会役員会
- 5月15日 第12回献身志願者の集い準備会
- 5月16日 同窓会全国支部長会議(役員会)
- 5月22日 理事会(第285回)
- 5月23日～25日 ペンテコステ立証祈禱会
- 6月5日 図書館運用委員会
- 6月12日 実習教会牧師との懇談会
- 6月16日 教授会(第3回)
- 6月19日 評議員会(第224回)
- 6月19日 理事会(第286回)
- 6月23日 同窓会常任役員会
- 7月3日 献身志願者の集い準備会

- 7月14日 教授会(第4回(臨時))
- 7月16～17日 献身志願者の集い、参加者6名
- 7月20、21、24日 精神医学特講
- 7月20、21日 前期補講日
- 7月24、26日 前期試験日
- 7月25、27日 牧会的ケアを学ぶためのワークショップ(講師:藤崎義宣先生)
- 7月28日 教授会(第5回)
- 7月28日 卒業論文中間発表会
- 8月8日 献身志願者の集い反省会
- 8月8日 同窓会常任役員会
- 8月21～22日 卒業生研修会(テーマ「コロナ後における宣教の希望」)、同窓会総会、於本校

個人消息

■神保望校長

- 4月30日 日本基督教団新潟愛泉伝道所牧師就任式に出席(祝辞)
- 5月12日 日本基督教団東京教区常置委員会に出席(年複数回)
- 5月14日 日本基督教団池袋西教会礼拝で説教
- 5月30日 日本基督教団東京教区総会に出席
- 6月11日 にじのいえ信愛荘礼拝で説教
- 6月17日 日本基督教団野辺地教会牧師就任式に出席(祝辞)
- 6月18日 日本基督教団水元教会特別伝道礼拝で説教
- 6月24日 池袋朝禱会で奨励
- 6月24日 日本宣教会(JMS)に出席
- 6月26日～28日 日本基督教団新任教師オリエンテーションに出席
- 7月2日 日本基督教団勝田台教会牧師就任式に出席(祝辞)
- 7月10日 日本基督教団宣教研究所委員会に出席(年複数回)
- 7月16日 日本基督教団野比教会礼拝で説教・伝道師就任祝辞
- 7月16日～17日 第12回献身志願者の集い開会礼拝で説教
- 7月23日 日本基督教団日立教会牧師就任式に出席(祝辞)
- 8月26日～28日 日本基督教会小樽シオン教会礼拝で説教・修養会で講演
- 校長として理事会、評議員会、教授会、校務会、人事委員会、図書館運用委員会、後援会役員会、献身志願者準備委員会に出席
- その他適宜面接・人事相談・学生面接を担当して執務執行

■荒瀬牧彦教授/教務部長代行

- 4月5日 社会福祉法人ナオミの会新任職員研修
- 5月5日 『コロナ後の教会の可能性』出版記念シンポジウム
- 5月13日 日本賛美歌学会関東支部会ヒム・フェスティバル
- 5月18日 カンバーランド長老キリスト教会(CPC)中会女性のつどい開会礼拝説教
- 5月24日 ナオミ保育園・ナオミホーム竣工式
- 7月17～20日 アメリカ・カナダ賛美歌学会2023大会(オンライン出席)
- 7月18日 賛美歌工房例会於JBTS
- 8月14日 『礼拝と音楽』編集委員会
- CPC 田園教会牧師としての執務。その他、

CPC 教職委員長・礼拝書委員・アジア宣教委員、JBTS 教務部長代行・理事・評議員、御茶ノ水スタンディング呼びかけ人、日本実践神学会運営委員として活動

- 執筆:『三要文深読十戒・主の祈り』・『同使徒信条』(共著)、『信徒の友』6月号「礼拝でささげられる祈り」、『カンバーランド宣教研究』1号「わたしたちの信仰と礼拝その深い関係」

■小林祥人教授

- 5月30日 関東教区准允式に出席、関東教区総会開会礼拝にて説教奉仕
- 6月25日 日本キリスト教団下館教会にて説教奉仕
- 7月23日 日本キリスト教団日立教会牧師就任式に出席
- 日本聖書神学校同窓会常任役員としての執務執行
- 日本基督教団取手伝道所牧師としての執務執行

■菅原裕治教授

- 東京聖三一教会牧師としての執務執行
- 日本聖公会管区共通聖職試験委員会委員長を継続(2023年度春期試験を監修)
- 日本聖公会東京教区聖職試験委員会委員長を継続(2023年度試験を監修)
- 日本聖書神学校図書館長、評議員としての執務執行
- 『信徒の友』に「ギリシア語で知る聖書」を連載。

■古谷正仁教授

- 4月2日 故関田寛雄牧師お別れ会実行委員会
- 4月18日 青山学院横浜英和中1教会見学受け入れ、日独ユースミッション2023神奈川プログラム実行委員会
- 4月19日 青山学院横浜英和中1・中2イースター礼拝
- 4月25日 故関田寛雄牧師お別れ会実行委員会
- 4月26日 青山学院横浜英和小1教会見学受け入れ(1)
- 4月27日 青山学院横浜英和小1教会見学受け入れ(2)
- 4月30日 新潟愛泉伝道所礼拝説教、大島庄吾牧師就任式出席(祝辞)
- 5月3日～5日 リフレッシュ@かながわ2023(短期保養プログラム)出席
- 5月11日 丘光会(横浜英和同窓会)聖書研究会
- 5月14日 六ツ川教会桐藤薫牧師就任式
- 5月20日 丘光会(横浜英和同窓会)総会礼拝説教

- 5月27日 学校法人横浜英和学院評議員会
- 5月29日 故関田寛雄牧師お別れ会実行委員会
- 5月30日 日本基督教団臨時常議員会陪席
- 6月8日 丘光会(横浜英和同窓会)聖書研究会
- 6月10日 神奈川教区合同問題協議会発題
- 6月13日 盲人伝道協議会神奈川集会受け入れ
- 日独ユースミッション2023神奈川実行委員会
- 6月17日 故関田寛雄牧師お別れ会、日本水上学園理事会
- 6月24日 神奈川教区総会(加太典子氏准允式執行)
- 6月25日 金沢八景教会木戸 定牧師就任式
- 6月27日 故関田寛雄牧師お別れ会実行委員会
- 7月3日～2日 日本基督教団常議員会陪席
- 7月5日 青山学院相模原キャンパス礼拝説教
- 7月11日 日独ユースミッション2023神奈川プログラム実行委員会
- 7月13日 丘光会(横浜英和同窓会)聖書研究会
- 7月16日 野比教会加太典子伝道師就任式
- 7月22日 横浜地区婦人会出席
- 7月23日 横浜地区集会出席
- 8月13日～15日 日独ユースミッション2023神奈川プログラム
- 8月27日 教区社会福祉小委員会集会出席
- 8月31日 青山学院横浜英和小学校職員キリスト教講座講演
- 日本基督教団神田教会牧師としての教務遂行
- 神奈川教区総会議長としての執務執行
- 社会福祉法人日本水上学園理事、学校法人敬愛学園元住吉こぼと幼稚園理事、学校法人横浜英和学院評議員としての業務遂行
- 『本の広場』に『ライフサイクルと信仰の成長』(JH ウェスター・ホフ、WH ウィルモン著、荒井、越川訳)、『聖書に生きる365日一日一章』(EH ピーターソン著、友川、川上、斎藤、マーチー訳)の書評を執筆

■柳下明子教授

- 5月15日 恵泉女学園大学Cウィーク礼拝で説教
- 5月23日 東京女子大学で礼拝説教
- 4月19日～7月5日 農村伝道神学校で近現代教会史Iを担当
- 日本聖書神学校評議員、日本基督教団番町教会牧師としての執務執行